



ぎがいの 広場

ひろば

「あいち県民の日」
大府市役所探検隊
議場にて



地域総ぐるみ防災訓練
に参加しました ⑱

委員会活動報告 ⑭

大府市議会ウェブサイト 



12月定例会・12月臨時会の審議結果

結果の表示	◎全会一致で可決、同意、承認、採択 ○賛成多数で可決等 ▲賛成少数で否決等 は、賛否が分かれた議案
-------	--

12月定例会（11月29日～12月17日）

番号	件名	結果
議案	59 専決処分の承認を求めることについて 令和6年度大府市一般会計補正予算（第7号）	◎
	60 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について 「懲役」及び「禁錮」を「拘禁刑」に改めるもの	◎
	61 大府市職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部改正について 職員の働き方改革の一環として、選択的週休3日制を導入するため、改正するもの	◎
	62 大府市運動広場の設置及び管理に関する条例の一部改正について 東新テニスコートの廃止	◎
	63 大府市都市公園条例の一部改正について 規則で定める都市公園において占用を許可できる物件又は施設として、市が設置する仮設の自転車等駐車を定めるもの	◎
	64 大府市下水道条例の一部改正について 排水設備指定工事店に係る責任技術者の専任規制の見直し等に伴い、改正するもの	◎
	65 令和6年度大府市一般会計補正予算（第8号）	◎
	66 令和6年度大府市一般会計補正予算（第9号）	◎
	67 令和6年度大府市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）	◎
	68 令和6年度大府市下水道事業会計補正予算（第1号）	◎
	69 指定管理者の指定について（ニツ池セレクトナ・ニツ池公園グラウンド） 指定の相手方 アクティオ株式会社 指定の期間 令和7年4月1日から令和12年3月31日まで	◎
	70 市道の路線認定について 市道3425号線（吉川町）、3426号線及び3427号線（朝日町）	◎
	71 市道の路線変更について 市道3209号線（朝日町）	◎
	72 令和6年度大府市一般会計補正予算（第10号）	◎
請願	1 再審法改正を求める意見書の採択を求める請願	◎
	2 ふれあいバスの増車と停留所を増やし利便性を求める請願	※継続審査
意見書	4 刑事訴訟法の再審規定（再審法）の改正を求める意見書	◎
諮問	2 人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて 正城 彰一氏	◎

※継続審査とは、会期中に賛否の結論を出すことができなかった議案を閉会中も継続して審査ができるようにするもの

番号		件 名	結果
選挙	1	大府市選挙管理委員及び同補充員の選挙について ・ 委 員 杉江香代子氏 塚本 廣道氏 平見 舞子氏 横山 眞弓氏 ・ 補充員 伴 博氏 北村 朝子氏 世古なゝ子氏 竹内 和子氏	◎
委員会 議 案	2	大府市議会の個人情報の保護に関する条例の一部改正について 「懲役」を「拘禁刑」に改めるもの	◎
その他	—	議員派遣について	◎

12月臨時会（12月25日）

番号		件 名	結果
議案	73	大府市職員の給与に関する条例等の一部改正について 国家公務員の一般職又は特別職に準じた給料、勤勉手当又は期末手当の見直し	◎
	74	大府市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正について 国家公務員の特別職に準じた期末手当の見直し	○
	75	令和6年度大府市一般会計補正予算（第11号）	◎
	76	令和6年度大府市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第2号）	◎
	77	令和6年度大府市水道事業会計補正予算（第2号）	◎

賛成・反対が分かれた議案 (全会一致の議案は省略しています)

会派名	親和クラブ										市民クラブ				公明党		無所属クラブ		共産
議員名 番号	蟹江陸孝	本田雅志	稲葉裕加里	竹田隆憲	藤本宗久	太田和利	時安利栄	早川高光	酒井真二	鷹羽琴美	小山昌子	加茂康治	野北孝治	木下久子	柴崎智子	国本礼子	宮下真悟	飯尾祐介	久永和枝
議案74	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	×

○は賛成 ×は反対（議長は地方自治法の規定により、議決に加わることはできません。）
会派名のうち、「共産」は日本共産党です。

議案審査

《12月定例会》

総務委員会

令和6年度大府市一般会計補正予算（第8号）

問 ナルキュウテニスコートの照明灯設備の修繕が、令和6年度の当初予算ではなく、今回の補正予算となったのはなぜか。

答 今回は、配電盤の故障が原因で突然消灯する事案が発生した。また、既存の水銀灯の電球が入手できないことから、本補正予算で全照明設備をLED照明に変更することで、今後の利用者の利便性を図っていく。

問 ナルキュウテニスコートの照明灯設備の修繕に要する期間は、どれくらいと想定しているか。



▲ナルキュウテニスコートの照明設備

〔答〕 施工業者が決まり次第、調整することになるが、テニスコートの利用停止期間は2週間程度と見込んでいる。整備工事は令和6年度内には完了できると考えている。

〔問〕 高齢ドライバーの運転技能の維持・向上を推進してきた経緯がある中で、今回、運転免許返納者へのタクシー料金を助成する目的は何か。

〔答〕 本事業は、高齢ドライバーに画一的な早期の運転免許返納を呼び掛けることを推奨しているのではなく、免許返納が必要になった高齢者の交通手段の確保に対する不安を取り除くことにつながるものである。

〔問〕 運転免許返納者のタクシー料金助成券の交付申請の受付は、令和7年1月6日から開始されるとのことだが、制度全体の周知についてはどうか。また、対象となる令和6年4月以降に運転免許を返納した者へは、どのように周知をするのか。



〔答〕 免許返納時の警察署窓口での案内や、市公式ウェブサイトにによる周知に加え、令和6年4月1日以降に運転免許証を自主返納した対象者には、郵送による案内を実施する。

令和6年度大府市一般会計補正予算 (第9号)

〔問〕 「大府市史」の編さんを進めていくとのことだが、編さん委員の構成や編さん期間をどのように考えているか。

〔答〕 編さん委員は、学識経験者や本市の歴史に精通した方を9名から10名程度想定しており、令和9年度の発刊を予定している。



▲既に刊行されている「大府市誌」

〔問〕 これまでに刊行した「大府市誌」とのつながりをどのように考えているか。

〔答〕 現在の「大府市誌」は昭和55年から平成3年にかけて刊行されたものである。今回は、平成を中心に「大府市史」を編さんする予定であるが、新型コロナウイルスの感染拡大を含めた様々な危機への対応や、女性活躍といったテーマを盛り込んでいきたいと考えている。

〔問〕 自主防犯活動促進事業費補助金の申請件数が当初見込みより上回っているとのことだが、申請の多い防犯対策装置は何か。

〔答〕 特殊詐欺防止用電話機器、常時監視・録画機能付ドライブレコーダー、センサーライトのほか、最近、犯罪グループが自宅に押し掛ける手口が報道されていることもあり、テレビ付きインターホンの申請も多くなっている。



〔問〕 愛三文化会館指定管理委託料を増額して修繕費に充てるとのことだが、どのような内容か。

〔答〕 トレーニングルーム、女子トイレ及び北側駐車場に係る修繕である。

大府市運動広場の設置及び管理に関する条例の一部改正について

〔問〕 これまで東新テニスコートを使用していた市民は、廃止後、どここのテニスコートが使用できるのか。また、廃止について、市民にどのように周知するのか。

〔答〕 大府北中学校のテニスコートとナルキュウテニスコートが使用できる。大府北中学校のテニスコートは、土曜日、日曜日、祝日で、学校行事がない日に使用でき、ナルキュウテニスコートは、平日も使用できる。廃止については、市公式ウェブサイトに広報おおぶへの掲載のほか、東新テニスコートやナルキュウ体育センターにチラシ等を掲示して、周知していく。

再審法改正を求める意見書の採択を求める請願

〔問〕 再審に関する規定を改正する議論が、死刑制度の議論につながっていくようなことはないか。

答 死刑制度の在り方の議論が世の中にあることは承知しているが、そのことと再審に関する規定を改正する議論とは全く別のものであるということを請願者にも確認している。

問 再審に関する規定を改正することにより、再審請求の濫発^{らんぱつ}といった弊害につながることはないか。

答 今回求める改正の趣旨は、再審そのもののハードルを下げるのではなく、再審請求の手續や、再審決定から公判に至るまでの過程における問題点の改正であるため、制度の濫^{うん}用^{よう}にはつながらないと考えている。

問 再審に関する規定の改正を求める意見書を本市議会から提出することの意義や効果をどのように考えているか。

答 えん罪を晴らすことが目的である再審に関する規定の改正は、市民を守るためにも大きな意義がある。世論の喚起や醸成のためには、地方議会からも法律改正の気運を高める必要がある、法改正は本市の公益に寄与するものであるという本市議会の意思を意見書として提出することの効果は高いと考えている。

厚生文教委員会

令和6年度大府市一般会計補正予算 (第8号)

問 民間保育所等の食材料費について、1食当たりの補助単価を10円から25円に引き上げるとのことだが、その算出根拠は何か。

答 総務省が発表している消費者物価指数の伸び率から10%の増加を見込んでおり、1食当たり15円を増額した。

問 放課後等デイサービスの開所時間延長委託の対象となる事業所は、市内に何か所あるのか。

答 この事業の対象となるのは、あらかじめ市に開所時間の延長について届出をしている事業所となり、市内に10か所ある。事業の実施については、10か所のうち、受入態勢が整う事業所と調整していく。

問 地域支え合い活動推進団体支援補助金520万円の内訳は。

答 対象となる常設サロン及び全世代型サロンは14団体で、1団体当たりの上限を30万円とし、フードバン

クや学習支援を実施する2団体は、上限を50万円とする予定である。



▲ふれあい食堂配膳の様子

令和6年度大府市一般会計補正予算 (第9号)

問 月見町で運営する民間保育所が、本市の都合で中央町に移転する工事を進めている。これに伴う交通安全対策の費用が増加することなどが、どのような整備を行うのか。

答 建設予定地に面する市道大府駅東線は、通勤・通学の歩行者や自転車の往来が多いため、歩行者を確認しやすいフェンスの設置や、園児の送迎車両が敷地内で安全に転回できるよう駐車区画を明確にする路面舗装を予定している。

問 石ヶ瀬会館の修繕及び備品購入が、当初予算ではなく、この時期の補正予算となったのはなぜか。

答 経年劣化した施設の修繕と備品の更新は、修繕計画に基づき実施しているが、令和7年度に市制55周年の事業が実施されることを想定し、令和6年度中に対応することとした。

問 介護老人福祉施設の大規模修繕の際にあわせて行うICT導入に対して、県の補助金を活用し補助を行うとのことだが、どのような効果が考えられるか。

答 見守りセンサーを導入することで、利用者に異常があった場合に早期発見ができるなどの安全確保の強化や、巡回業務の効率化や記録の自動化などによる職員の業務負担の軽減が図られる。さらに、夜間の人員配置基準の緩和による事業所の経営面での効果も期待される。



令和6年度大府市一般会計補正予算
(第10号)

問 新型コロナウイルスワクチン接種により健康被害を受けた方に対する救済給付金は、誰に支給するのか。

答 死亡一時金については、配偶者又は同一生計の遺族に支給され、葬祭料は、葬祭を執行する者に支給される。

建設産業委員会

大府市都市公園条例の一部改正について

問 共和駅東自転車駐車場の工事期間中、「仮設の自転車等駐車場」を近隣の都市公園内に一時的に占用して設けるとのことだが、それらの公園を利用することは可能か。

答 法令上、公園利用に著しい支障を及ぼさないことが規定されている。公園全体を仮設の自転車等駐車場にすることは考えておらず、遊具で遊べるよう配慮する予定をしている。

指定管理者の指定について

問 大府市自然体験学習施設二ツ池セルトナ及び二ツ池グラウンドの指定管理者選定の審査結果における見積金額の評点について、両社とも基準点の9点より低い結果となっているが、市が提示した見積金額の設定は適切であったか。

答 安価であるほど加点される方式を採用しており、両社とも上限額に近い見積金額であったため、低くなった。これまでの実績に対し、人件費の上昇分を加味した適正な設定であったと判断している。



▲大府市自然体験学習施設「二ツ池セルトナ」(横根町)

令和6年度大府市一般会計補正予算
(第8号)

問 認定農業者等に対する物価高騰対策の補助金は、いつまで継続する考えなのか。

答 令和6年6月の食料・農業・農村基本法の改正により、食料の合理的な価格の形成が法律に明記され、物価高騰の影響を農業者のみが被らないような仕組みづくりに国が取り組んでいる。今後の状況を見ながら、都度、対応を考えていきたい。



令和6年度大府市下水道事業会計補正予算(第1号)

問 令和4年度から愛知県が実施している五ヶ村川中流排水機場の整備とあわせて、南島排水区における雨水管渠の整備を計画的に進めている中で、土地購入に係る経費を計上するものだが、全体の工事計画に遅れないか。

答 令和6年度予定の工事については、用地取得の見込みが立ってからの発注となったため、発注時期は遅れたが、令和7年度は当初の計画どおり発注していく。事業全体としては、令和7年度の完了を目指して予定どおり進めていく。

《12月臨時会》

厚生文教委員会

令和6年度大府市一般会計補正予算
(第11号)

問 住民税非課税世帯への生活支援給付金の支給基準日以降に、転入や転出をした対象世帯へはどのように対応するのか。

答 今回の給付金は、国から示された基準日である令和6年12月13日時点で住民登録がある自治体から支給されるため、基準日に住民登録のある自治体が実施する。



第4回定例会(12月17日)で次の意見書が可決されたため、同日、関係機関に提出しました

刑事訴訟法の再審規定（再審法）の改正を求める意見書

冤罪^{えんざい}は、無実の者を犯罪者として罰することであり、国家による取り返しのつかない重大な人権侵害である。冤罪被害者を出さないような捜査権の行使が必要不可欠であることはもとより、冤罪被害者となった者を速やかに救済する制度の構築も非常に重要である。

現行の再審制度には、検察官が持つ証拠の開示を義務付ける規定がなく、救済を求める者の再審請求が困難となっていることに加え、再審開始決定に対する検察官の不服申立てが認められていることにより、審理が長期化する傾向にある。

また、再審請求手続に関する具体的な規定がないため、再審請求書受理後に速やかな審理が行われないケースも散見される。

よって、本市議会は、国に対し、冤罪被害者の速やかな救済のため、刑事訴訟法の再審規定（再審法）の改正により、下記の事項を実現するよう要望する。

記

- 1 再審請求手続における証拠開示の制度化を図ること。
- 2 再審開始決定に対する検察官の不服申立ての禁止に係る規定を新設すること。
- 3 再審請求書受理後の速やかな実質審理を義務付ける等の手続規定を整備すること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、内閣官房長官、法務大臣

一般質問

(13人) ※正副議長は一般質問を行わない慣例になっています。

答 令和5年度に取りまとめた「おおぶレインボープラン」に基づき支援している。また、令和6年度は、新たにスクールソーシャルワーカーに指導言をするスーパーバイザーの配置、第2教育支援センター

質 スクールソーシャルワーカーを含めた本市の長期欠席児童生徒の支援体制はどうか

答 令和5年度の長期欠席者数のうち、病気や経済的理由などを除いた、いわゆる不登校に関する状況としては、在籍児童生徒数当たりの長期欠席者の出現率は、小学校では、国が2・14%で本市は2・29%、中学校では、国が6・71%で本市は6・47%となっており、それぞれほぼ同程度の状況である。

質 文部科学省が発表した令和5年度の長期欠席児童生徒数と本市の現状をどのように捉えているか



誰一人取り残されない
総合的支援体制を目指して

時安 利栄 議員



の設計、民間フリースクール等授業料補助金の交付、長期欠席・ひきこもり支援講演会の開催などを実施している。

質 現状の支援体制やスクールソーシャルワーカーの相談状況を踏まえ、一層の支援体制の充実についての考えはどうか

答 スクールソーシャルワーカーについては、長期欠席者数や相談件数の増加、相談内容の多様化を受け、令和5年度に増員した。さらに、令和6年度にはスーパーバイザーを配置するなど、体制の拡充を図っている。今後も、児童生徒への心身のケアに対応し、より一層充実した環境で学べるようにするため、新たに小学校へ校内教育支援室を設置するとともに、養護教諭が1人の中学校に養護教諭補助員を増員配置し、全ての小中学校で複数の人員体制とすることを検討していく。



持続可能で魅力ある賑わいを
創っていくために

竹田 隆憲 議員



質問 本市の小規模事業者による商業の活性化について、本市として魅力ある商業空間の創出を図るために、どのような取組を行うべきか

答弁 何よりも各店舗の経営者自らが、能動的に経営基盤を安定させる取組が重要となる。

また、商店街組織においても、自発的に店舗同士の連携や地域全体の一体感を醸成する取組をすることで、賑わいが創出され、持続的な集客が図られるものと考ええる。事業者の自主的な努力を前提として、店舗の課題解決に向けた支援と、事業者同士の連携や魅力ある商業空間をつくり上げていくためのバックアップに取り組む必要がある。

質問 大府市空家改修費補助金における店舗利用の優遇制度を検討してはどうか

答弁 現行の補助制度は、主に居住用家屋を原則としている

が、住宅とそれ以外の用途の兼用住宅も補助対象となっている。執行状況など運用の状況を観察していきたい。

質問 本市ではイベントの廃止・継続を全庁的にどのような考え方で行っているか

答弁 実施計画において、実績や費用対効果、他事業との重複の有無などの観点から、毎年度検証を行っている。今後も事業の「選択と集中」を推進し、引き続き、魅力的なイベントの開催に努めていく。

質問 イベントの開催に当たり、実行委員会形式にして企業から協賛を募る場合、どのように予算を算出しているか

答弁 実行委員会で話し合い、実施したい内容の優先順位を付けた上で、協賛の目標金額を設定し、協賛者を募っている。



働く人を守る
大府市公契約基本条例

久永 和枝 議員



質問 大府市公契約基本条例第7条第3項に、労働条件の確保のため必要な場合に調査を行うところがあるが、どのような段階で事業所等への調査を行うのか

答弁 当事者本人からの申出により、社会保険・雇用保険の加入、最低賃金の確保、適正な労働時間・休日の実施等について、客観的証拠により適正ではないと思われる場合に行う。

質問 企業や事業所等が労働者の適正な労働条件を確保しているかを、市としてどのように確認しているのか

答弁 工事等を発注する課の監督職員が適切な執行管理をしている。行政管理課でも500万円以上の工事の完了検査時に週休2日制工事の実施状況、社会保険の加入状況、下請負がある場合はその契約書の写しの提出を求める等、適正な労働条件の確保について確認をしている。

質問 市の施設の請負その他の契約及び市が指定管理者と締結した、条例の対象となる事業所等は3年間で何件か

答弁 行政管理課で契約締結事務を行った令和5年度の契約等は、工事が112件で33社、委託が662件で261社を始め、賃貸借、修繕、物品購入、指定管理者との協定をあわせて合計2,735の契約を締結している。3年間の契約数では、8,579件となる。

年度	契約数（件）	延べ事業所（社）
R3	2,808	503
R4	3,036	537
R5	2,735	550
合計	8,579	1,590

▲大府市公契約基本条例の対象となる企業等との契約数



未来へつなぐ 循環型社会の実現について

本田 雅志 議員



質問 資源の分別回収について市民からどのような問合せや意見等が挙がっているか

答弁 品目ごとの細かい分別方法や汚れがひどいときの対応などについて問合せがある。汚れがあまりにもひどいようであれば、温水を使って洗うと水や電気・ガスの使用量が増し、かえって環境に悪影響を与える場合もあるので、燃やせるごみとして出して構わないと回答している。また、資源の分別回収について問合せを受けた際には、ごみ資源分別アプリ「さんあゝる」を紹介している。



App Store
からダウンロード



GET IT ON
Google Play

▲ごみ分別アプリ
「さんあゝる」QRコード

質問 資源別に「リサイクルのゆりサイクル」の動画を作成して、リサイクルの啓発活動に取り組み考えはあるか

答弁 回収された製品がどのようなリサイクルされているかを知っているのと知らないのでは、資源回収に取り組む際の意識が大きく変わると考えている。動画による啓発により資源回収に対する理解が更に深まることが期待できるので、効果的な動画の作成を検討していく。

質問 刈草・せん定枝等を回収し再資源化する考えはあるか

答弁 刈草やせん定枝等を回収し再資源化することは、ごみの減量に有効である一方、季節によっては膨大な量が排出されることから、回収場所や人手の確保、リサイクル後の活用といった点に課題がある。刈草やせん定枝等の再資源化を持続可能に推進するためには、リサイクル後の活用方法も視野に入れた一貫したシステムの構築が求められる。様々なパートナーとの連携も含め、調査研究していく。



切れ目のない子どもの 健やかな成長支援のために

国本 礼子 議員



質問 本市が行っている乳幼児健康診査では、国の1か月児健康診査支援事業での健診内容を補完できているのか

答弁 本市は愛知県市長会を代表して、愛知県医師会と交渉を行っている。1か月児健診において子育てに関する問診項目を追加するなど、国が示す内容について、令和7年度から実施できるよう調整を進めている。

質問 就学前の子どもに対する支援を効果的に行うための教育・福祉・医療機関との連携強化について、今後どのようなことで更なる連携を図る必要があると考えられるか

答弁 1歳6か月児健診や3歳児健診において、発達が気になるものの支援につながらない、又は支援の機会が途切れてしまうケースが一定数あることが課題となっている。これまで関係機関と築き上げた連携体制をよ

り緊密なものとし、多方面から発達支援を必要とする子どもにアプローチすることで、支援につなげていきたい。

質問 5歳児健診を実施する考えはあるか

答弁 従来の体制では支援が十分となっていない社会性やコミュニケーションが苦手な子どもに、効果的な健診を行うこととあわせて、十分な相談支援体制を整備することが必要であると認識している。関係機関や有識者と連携し、健診後の支援体制などについて調査研究を進めていく。

5歳児健診ポータル
すべての子どもに、
5歳児健診を。
親子の成長を一緒にサポート。
親子の成長を一緒にサポート。
親子の成長を一緒にサポート。

▲子ども家庭庁「5歳児健診ポータル」(https://gosaiji-kenshin.com/)



安心して暮らせる施策について

酒井 真二 議員



質問 地域全体で犯罪を防ぐ意識を高めるために、どのように取り組んでいるか

答弁 本市では、「安心安全重点地区」を輪番制で指定し、

その自治区が防犯活動及び交通安全活動を重点的に行い、牽引役を担うことで地域全体の防犯意識の醸成を図っている。さらに、愛知県警察本部と東海警察署の全面協力により、「おおぶ防犯ボランティア養成講座」を令和3年度から開催している。警察官と受講者が実際に地域を歩いて防犯診断をし、犯罪が発生しやすい建物構造や見通しの悪い場所を学んでおり、講座修了者が防犯活動の中心的役割を担い、地域の防犯力が高まることを期待している。

質問 自転車の「ながら運転」防止の取組は何か

答弁 本市では、自転車交通安全教室で、愛知県警察本部専

従の自転車部隊「ビーフォー」による正しい自転車の乗り方の実演とともに、「ながら運転」の危険性や安全に乗ることの大切さを伝えている。

質問 東浦町で起きた救急出動時の誤判断を踏まえ、救急隊員にどのような指導を行ったか

答弁 増加する救急出動の中で、救急隊が明らかな死亡と判断し、不搬送とする場合には、社会的に見て明らかに死亡している状態のほか、総務省消防庁の通知に基づく判断基準に従い、意識、呼吸、脈拍、瞳孔、体温、死後硬直又は皮膚に出現する死斑の6項目の観察を行い、さらに、心電図による心静止状態を確認している。更なる対策としては、明らかな死亡と判断する際のチェックリストを作成するとともに、先入観を持つことなく客観的な観察を実施し、複数人での最終確認を徹底するよう指導した。



加齢性難聴と妊産婦医療費助成 災害応急対策

柴崎 智子 議員



質問 加齢性難聴の早期発見のため、「ヒアリングフレイルチェック」ができる機会や場を設けてはどうか

答弁 ヒアリングフレイルチェックは、「聞こえにくさ」の自覚を促すもので、難聴の早期発見に効果が高い取組である。

本市は、令和5年度から身体障害者手帳の交付対象とならない65歳以上の難聴者を対象に、補聴器の購入費用の助成を開始している。今後は、ヒアリングフレイルチェックなどの周知を含めて、高齢者の集いの場や市公式ウェブサイトなどで普及・啓発を図っていく。

質問 妊産婦医療費助成事業の実施についての見解はどうか

答弁 妊産婦医療費助成制度は、母子手帳が交付された妊婦に対して出産月まで保険適用による医療費を助成するものである。本市での実施については、

今後、他自治体の事例等を調査研究していく。

質問 災害時、生活に必要な水の確保をどのように考えるか

答弁 災害時における飲料水の確保のため、避難所等の重要給水施設への水道管耐震化を令和2年度に完了した。現在は、避難所となる小中学校の受水槽への非常用給水栓設置のほか、井戸所有者の承諾を得て「井戸水提供の家」を指定することで、生活用水の確保にも努めている。

質問 トイレレシーラーの整備の検討についてはどうか

答弁 本市では、災害用備蓄品として、指定避難所のトイレを衛生的に使用できるよう、凝固剤入防臭袋、圧縮保管袋等の備蓄を進めており、トイレレシーラーについては、通常時の運用方法や保管場所など、解決すべき課題を調査研究していく。



市民生活を豊かにするための 都市間交流について

小山 昌子 議員



質 問 都市間交流の意義についてどのように考えているか

答 弁 地理的、歴史的、人的、あるいは企業、商業関係等、様々な縁や結び付きを契機とする都市間交流を継続的に展開することは、本市の魅力やにぎわい・活力を高めるとともに豊かな市民生活の実現に寄与するため、意義のあることだと考える。

質 問 市民団の派遣についてどのように考えるか

楽を始め、野球やバーベキュー、児童図書、農業による交流を検討している。様々な分野における交流は、多くの市民がともに理解を深めていくための大きなステップになると考える。今後は、両都市の市民が直接触れ合い、互いの生活習慣や伝統を学び合うことで、一層友情が深まるよう、市民団の派遣に向けて検討していく。

質 問 交流都市の拡大についてどのように考えているか

答 弁 大韓民国洪城郡は、WHOが提唱する健康都市連合に加盟する都市として交流する中で、着実に友好関係を発展させ、令和6年度に姉妹都市協定を締結した。この歴史的な協定に基づき、健康、教育、文化、スポーツ、経済などの幅広い分野の交流を目指し、これまでのK-POPダンス交流に加えて、お互いに楽器メーカーがある縁からバイオリンやオカリナの音

答 弁 互いの文化に触れ合うことによる市民の我がまちへの愛着と誇りの醸成や震災等災害時の協力体制の構築だけでなく、行政課題が多様化する中で、それらを解決する糸口にもなるため、今後、機会を捉えて交流都市の拡大を図っていく。



安心安全に暮らせるまち 大府市について

野北 孝治 議員



質 問 災害の備えについての基本的な考え方は

答 弁 愛三文化会館を新たに公設の福祉避難所とするため、宿泊室を全て個室に改修し、シャワーブースの設置を行っている。さらに、避難者が個室使用できるテント型シェルターやポータブル蓄電池などの災害対策資器材の配備も進めている。

今後も、国が強化する防災・減災対策の動向を注視し、市民の生命と生活を守るため、災害に強いまちづくりに取り組んでいく。

質 問 電動自転車（モペット）に関する安全教室を実施する考えはないか

答 弁 電動キックボードに代表される特定小型原動機付自転車は、令和5年7月からナンバープレートの交付を開始している。本市の窓口では申請の際に、公道を走行するために必要となる条件や備えについて、チ

ラシによる啓発を行っている。一方で、一般原動機付自転車に区分される電動自転車については、現在、本市でのナンバープレートの交付はない状況ではあるものの、まずは、車両による交通ルール等の違いについて、チラシによる街頭啓発を行いたいと考えている。

質 問 救急隊員が気がねなく水分補給や食事の時間を確保できるよう緊急車両に休憩中であることを表示する考えはないか

答 弁 救急車には飲料水を常備しており、救急出動が連続し、署所へ戻って食事がとれない場合は、次の出動要請に備えながら必要に応じて飲食することを容認している。短時間の休憩でも、市民からは何をしているのかかわかりづらい状況もあるので、連続出動のため水分補給等を行っていることがわかるよう、必要に応じてダッシュボード上にその旨を掲示していく。



「教養を深め豊かな心を育て
ましよう」を实践するために

藤本 宗久 議員



質問 教養を深めると豊かな心は育つのか

答弁 教養を深めることは豊かな心を育む一助となる。教養とは、単なる知識の蓄積ではなく、他者への理解を深め、自身自身の感性や視野を広げる力を養うことであると考えている。

その結果、他人や社会、さらには、自然や文化に対する感受性が高まり、コミュニケーション能力や判断力の向上につながる。大府市民憲章にはこれらの思いが込められている。

質問 本市の子どもたちの読書量をどのように認識しているか

答弁 本市の学校図書館での児童生徒1人当たりの年間平均貸出冊数は、令和5年度は令和4年度と比較すると1.3冊増加していた。各学校では、朝の読書タイムや読書週間などを設け、1日の活動時間の中で読書の習

慣を身に付けられるよう取り組んでいる。令和6年12月からは、おおぶ文化交流の杜図書館が、学校に配備したタブレット端末を使用して、一定の期間は冊数の制限なく本の閲覧ができる「読み放題パック」というサービスを吉田小学校において試験導入している。

質問 ブックスタート事業を検討してはどうか

答弁 本市では、4か月児健診時にも、企業から提供された絵本を使った読み聞かせを行い、その場で全員に絵本をプレゼントしている。ブックスタート事業については、現状の取組を継続しつつ、今後も引き続き、おおぶ文化交流の杜図書館を始め、保健センター、児童センター、子どもステーションなどの子育て支援施設が相互に連携し、子どもへの読み聞かせの機会の周知や支援を進めていく。



ゼロカーボンシティの
実現に向けた取組について

加茂 康治 議員



質問 市内の二酸化炭素排出量削減に向けた取組の進捗はどうか

答弁 2050年のゼロカーボンシティの実現に向けて、市民向けの「大府市シビック・エコアクション8」の普及促進、大府市バイオマス産業都市構想の実現に向けた生ごみの分別収集や製品プラスチックと容器包装プラスチックの一括回収など、循環型社会の形成を目指した取組を進めている。また、公共施設の照明のLED化を始めとする再エネ・省エネ設備の導入促進などを実施している。

に、本市が民間事業者と進めている充電設備に関する取組や国・県の補助制度などに関するチラシを送付し、次世代自動車の充電設備に対する関心を高めてきた。

質問 Jークレジットの今後の取組をどう考えているか

答弁 事業者が長野県王滝村・木曾町のJークレジットの購入をきっかけに、脱炭素経営に主体的に取り組めるよう、伴走支援を行い、持続可能な脱炭素経営を推進できるよう、包括的な支援策をより一層充実させていく。

質問 集合住宅への次世代自動車の充電設備の推進をどう考えるか

答弁 集合住宅に充電設備を整備することは次世代自動車の普及促進に重要な要素であると考えている。マンションの管理組合やアパートなどのオーナー

質問 Jークレジットの市内事業者とのマッチングの状況はどうか

答弁 現在までに12社とのマッチングが成立し、合計93t-CO₂の購入意向があった。



大府市でより豊かな 市民生活を送るために

稲葉 裕加里 議員



質 問 別にごみ出しに関する問題で個別に解決し難い案件については、どのように解決すればよいと考えるか

別収集を実現するためには、越えなければならぬ課題が多いがメリットもあるので、今後も、他自治体の戸別収集の事例について調査研究していく。

答 弁 ごみ出しやごみ収集に関する相談に対しては、その困りごとに耳を傾け、寄り添った対応を心掛けています。必要に応じて、各部署が連携して横断的に解決策を探るとともに、自治区などの関係機関と連携し、地域で話し合える環境をつくりながら、解決策を導いていく。

質 問 粗大ごみ収集の申込方法や決済方法をデジタル化する考えはあるか

答 弁 粗大ごみ戸別収集の受付、料金徴収、収集運搬は、収集委託事業者が実施している。市は、市民が支払った代金に負担金を上乗せして事業者を支払う仕組みとなっている。受付の際には、ごみの種類や素材、事前処理など直接の聞き取りや依頼事項も多く、電話受付だからこそスムーズに収集ができるという点や高齢者には安心感があるという点など、今の方法によるデジタル化されることによるメリットは大きいと感じるため、市民にとって便利な仕組みの導入について、調査研究していく。

質 問 戸別収集に関する本市の見解は

答 弁 戸別収集の実施に当たっては、多くの課題がある。収集場所については、集合住宅を考慮しない試算で、現在の約3,400か所から約4万か所に増える。また、ごみステーションを通じて近所同士の顔の見える関係が、戸別収集によって希薄化してしまうおそれもある。戸



第6次総合計画の中間見直しと 持続可能な敬老事業について

飯尾 祐介 議員



質 問 第6次総合計画の施策評価指標のうち、現状と目標値とが大きく乖離している指標をどう総括し、後半期間に向けてどう改善するか

の策定を通じた施策の充実・強化により、第6次総合計画の後半期間のまちづくりを推進する。

答 弁 計画策定と同時期に、新型コロナウイルス感染症の拡大に直面し、多岐にわたる取組で大きな制約を受け、関連指標に著しい悪化が見られた。今後は、指標の悪化が社会経済情勢の変化に伴う一時的な影響か、市民の意識や行動の変容が恒常的なものかを見極めた上で、実施計画で柔軟な事業の再検討を進め、施策を再構築し、目標達成に向けた取組を進めていく。

質 問 結婚観の変化など、多様化する価値観の中で「金婚・ダイヤモンド婚を祝う会」の意義や在り方をどう評価するか

答 弁 節目を地域全体で祝うことは家族や地域のつながりを再確認し、次世代に経験や知恵を伝える場として大きな意義を持ち、共生社会の実現に寄与すると考え、今後も継続していく。

質 問 第6次総合計画の前半期間の総括を踏まえ、後半期間の計画推進に向け、中間見直しを行うことへの見解はどうか

質 問 敬老金の対象や支給内容等を「おおぶ活き活き高齢者応援八策」を踏まえ、将来的に見直すことへの見解はどうか

答 弁 まち・ひと・しごと創生法に基づき第3次大府市まち・ひと・しごと創生総合戦略

答 弁 多くの高齢者から、日常生活の補助として自由に使える現金支給がわかりやすく、喜びや感謝を感じられるとの声をいただいている。現時点で見直す予定はない。

※第6次大府市総合計画とは、令和2年度から令和12年度までを計画期間とする、市政運営の総合的かつ長期的な指針

※第3次大府市まち・ひと・しごと創生総合戦略とは、「まち・ひと・しごと創生法」が規定する市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略として策定される、「第6次総合計画」に基づく5年間の中期的な実行計画

委員会活動報告

総務委員会

10月16日に「健康都市おおぶのスポーツ振興について」、大府市スポーツ推進委員会と情報交換を行った。

大府市スポーツ推進委員会との情報交換会

現状と課題について

大府市スポーツ推進計画において「週1回以上運動やスポーツに取り組んでいる」市民の割合の目標値を65%に設定しているが、ここ数年、約45%で推移しており、目標達成が難しい。特に30代から40代までの運動不足の解消が必要である。

大府市への反映・所感

市民がスポーツに取り組むきっかけづくりのために、効果的な情報発信、楽しく参加しやすい環境づくりの検討が必要である。



▲12月2日に開催された「ニュースポーツフェスタ」でモルックを体験

10月22日から24日まで、島根県出雲市、山口県下関市及び福岡県糸島市を視察した。

NPO法人出雲スポーツ振興21の取組について（島根県出雲市）

出雲市では、平成11年度を21世紀に向けたスポーツ振興元年と位置付け、出雲市総合スポーツ振興計画である「出雲スポーツ振興プラン21」を策定した。この計画は、①人づくり、②環境づくり、③システムづくりの3本柱で策定され、このプランを具現化する組織「NPO法人出雲スポーツ振興21」が立ち上げられた。「まちの発展」につながる事業を担っている市と、「豊かな市民生活につながる市民のスポーツ振興」を担っているNPO法人とが両輪となり、スポーツを活用したまちづくりに取り組んでいる。

大府市への反映・所感

NPO法人がスポーツ振興の中心的な団体として経営体制を整え、自主・自立運営をしていた。また、定年制の創設・新卒採用も行い、継続的な体制づくりにも取り組んでいる。行政とNPO法人が担うことの仕分けがされている点は、スポーツ振興を行っていく上で参考になると感じた。

スポーツ施設の個別施設計画・下関市新総合体育館整備事業について（山口県下関市）

下関市では、人口減少や少子高齢化が進み、厳しい財政状況が続くことが見込まれるため、施設の現状を把握、整理し、具体的な対策や集約化等を計画的に実行することを目的に、「スポーツ施設の個別施設計画」が策定された。

また、下関市新総合体育館整備事業は、設計・施工・維持管理・運営を一括して発注するBTO方式で行われている。設計・建設・運営の企業が互いのノウハウを活用することで、施設・運営品質の向上やコスト削減を図り、また、建設資金の一部を民間事業者が調達することで、市の財政負担の平準化を図ることができている。

大府市への反映・所感

スポーツ施設については、今後起こり得る人口減少に合わせた施設規模の見直しや、より多目的で柔軟な利用の仕方、また、施設の不足が課題となっている大府市でも検討していかねばならないと感じた。

今後の大府市のスポーツ施設を見据え、「健康都市おおぶ」だからこそ、経過年数と維持管理をシミュレーションする必要がある、建て替

えも含めた既存のスポーツ施設の在り方を検討していかなければならないと感じた。



▲総務委員会（山口県下関市）

糸島市運動公園について（福岡県糸島市）

糸島市では、平成24年2月に「総合運動公園の整備を求める請願」が各種スポーツ団体を始め、市内18団体から提出され、市議会が全会一致で採択した。その後、市議会に「総合運動公園等調査特別委員会」が設置され、①総合運動公園等の施設に防災機能を備えること、②市民が真に必要とし、利用しやすい施設を整備すること、③最小限の費用を持つて最大限の効果が得られるように努めることの3項目が提言された。

大府市への反映・所感

糸島市の新施設では、「運動」機能に加えて「防災」機能をプラスしており、災害時にスマホ等の充電ができる貴重品保管庫、マンホールト

イレ、かまどベンチ、防災備蓄品の格納等、防災力の強化に注力された点は、大いに参考にすべきである。

また、各年代で楽しむことができるよう整備されており、生涯にわたって、この運動公園を使って健康増進を図るという発想はすばらしい。

予約は糸島市独自のシステムで、「いつでも・だれでも・どこでも」の考えから、施設が空いていればいつでも利用できる仕組みとしていた。これは、スポーツ振興につながるきっかけとなり、大府市も参考にすべきである。

厚生文教委員会

11月5日から7日まで、大阪府堺市、岡山県岡山市及び夢のみずうみ村「防府デイサービスセンター」(山口県防府市)を視察した。

介護予防「あ・し・た」プロジェクトについて(大阪府堺市)

堺市では、これまでも介護予防教室や啓発活動は行ってきたが、より効果的な取組が必要となってきた。課題解決に向け、公民連携で取り組む介護予防にシフトし、成果連動型委託契約を導入して事業を進め、事

業内容として、高齢者がいつまでも元気に安心して自立した生活を維持することができるよう、「あるく(身体活動)」、「しゃべる(社会参加)」及び「たべる(食生活)」

のプロジェクト事業を実施している。

大府市への反映・所感

堺市は、委託にシフトしたことで、従来の介護予防の課題解決につながっていると感じた。参加募集のパンフレットには、これまで福祉事業で当たり前に使用していた「介護予防」「健康」という言葉は使わず、デザインや写真にこだわり、また、多様性が問われている中でも、男性限定や女性限定のプログラムを準備し、特に「男の本気」を名称に入れることにより、課題である「男性の参加」を促すことができている。また、美しい姿勢ときれいなウォーキングなど、高齢者でも興味を持って参加できるところがよいと感じた。

在宅介護総合特区(AAAシティおかやま)について(岡山県岡山市)

岡山市では、「介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会の構築」をコンセプトに平成25年から事業を実施している。高齢者自身による予防や介護度の改善に通じた施策の実施等に

よる将来負担の抑制や、在宅介護を可能とする最先端介護機器の活用による産業振興、在宅で安心して暮らせる地域包括ケアの実現等の施策を一体的・総合的に実施することにより、来るべき超高齢社会を乗り越えることができる新しい社会経済モデルを構築することを目指している。

これまでに在宅サービスに特化した総合特区は全国でも例はなく、こうした取組を実現することで、これからも「地方から国を動かす」ことを目指して取り組んでいる。

大府市への反映・所感

岡山市の「高齢者活躍推進事業」である「ハタラク」の取組は、要介護高齢者となっても、地域で働くことやボランティア活動をすることで、自己有用感を得ることができ、本人の生きがいにつながり、健康増進にも貢献している。要介護者となった場合、家族や福祉事業者の協力がないと外出することが困難で、どうしても家に引きこもりがちになるが、このような取組があれば、本人の意思を尊重し、外出することができ、なおかつ、人の役に立てるといったことが実現できると考える。

大府市でも要介護となった高齢者が、外出して働く意思や、地域に貢献したい思いを実現できるように、また、介護施設や市内の事業者の理

解と協力を得て、安全性を考慮しながら実施できるように、大府市がつなぎ役を担うことで、高齢者の外出機会の創出が図られると考える。

高齢者にとつて魅力的な外出先「夢のみずうみ村防府デイサービスセンター」(山口県防府市)

夢のみずうみ村防府デイサービスセンターでは、元気で過ごしていただくためのたくさんの方の仕掛けがあり、デイサービスセンター内で過ごす時間を楽しむことが、自然とリハビリにつながると考えている。運営方針は、「可能な限り自立した生活を営むことができるよう必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持ならびに利用者の家族の身体的・精神的負担の軽減を図る」こととしている。

大府市への反映・所感

センターの職員が各利用者の状況に配慮し、極力手を貸さない、いわゆる「バリアフリー」の考えを取り入れていることは、利用者の日常動作の維持・強化に非常に効果的だと思った。村内通貨「ユーメ」については、稼ぐことも使うことも自由にでき、それを稼ぐことにより活動に対する満足度を高めていると感じた。

気軽に立ち寄れる公共施設とするためには、利用者の意見を反映できるような仕組みが必要だと思う。デイスサービス等の介護施設については、利用する前から体験や見学ができるような配慮が大都市としても必要ではないかと考える。



▲厚生文教委員会
(山口県防府デイサービスセンター)

建設産業委員会

10月15日から17日まで、茨城県水戸市、東京都多摩市、千葉県千葉市及び静岡県沼津市（ＪＲ沼津駅前広場）を視察した。

水戸市バリアフリー基本構想

について（茨城県水戸市）

水戸市では、「連続的なバリアフリー化」「持続可能なバリアフリー

化」「心のバリアフリーの推進」を目標し、水戸市バリアフリー基本構想を策定した。

具体的には、道路整備において、歩道の有効幅員の確保、横断歩道でのエスコートゾーンの整備などのほか、スマホと信号機を連携させた「歩行者支援装置（高度化PICS）」が活用されている。都市公園では、車いす利用者向け設備の充実が図られ、市役所庁舎施設では、右麻痺用・左麻痺用トイレや介助大用トイレが設置されていた。

心のバリアフリーの推進としては、「心のバリアフリー部会」を設置し、啓発活動を実施するほか、WheelLogアプリを活用したバリアフリーマップの提供も行っている。

大府市への反映・所感

水戸市の視察を通じて、ハード整備が完了した後も「心のバリアフリー」の実現が不可欠であることを深く実感した。

大府市においても、移動困難者が安心して移動できる環境を整備するためには、最新技術の導入や案内板の見直し等、実効性のある施策が求められる。加えて、単にインフラを整備するだけでなく、市民一人一人が理解し合い、支え合う地域づくりを進めることが重要であり、利用者目線に立った施設整備が求められる。



▲建設産業委員会（茨城県水戸市）

街路樹よくなるプランについて (東京都多摩市)

多摩市におけるプラン策定の目的としては、老朽化した樹木の適切な更新や剪定、歩道幅の確保等による歩行者の安全確保、美しい街並みの形成である。さらには、市民参画を促進し、持続可能な管理体制を構築することも大きな目的となっている。具体的には、樹木の適切な管理と改善を図ること、歩道幅を広げ歩行者と自転車の安全を確保すること、遊歩道や公園にベンチを設置し、歩行者が快適に過ごせる空間を提供することなどが挙げられている。

また、間伐や伐採を行い、適切な樹種への植え替えを進め、持続可能な緑を育てる取組や、市民参画を進め、地域の人々と協力して街路樹の整備を行う取組も行われている。

大府市への反映・所感

多摩市の「街路樹よくなるプラン」における基本方針として挙げられている「安心快適な道づくり」「まちの資産価値を高めるみどりの形成」「みどりの活用による地域コミュニティの活性化」は、大府市にとっても非常に参考になる重要なポイントである。

歩行空間のベンチ設置計画について (千葉県千葉市)

千葉市の「歩行空間のベンチ設置計画」の目的は、道路を利用する人々の快適性や利便性を向上させ、特に超高齢社会への対応を図ることである。歩行者が気軽に立ち寄り、休憩できる「憩い、集い、語らい」の場を提供することを目指している。

この取組は、道路を所管する課の事業であり、市内の主要な駅前広場や歩道、歩道以外の公共空間にベンチを設置することで、地域住民や訪れる人々にとって快適で利便性の高い環境をつくり上げる狙いがある。

具体的には、駅前広場において、ベンチを各バス停に1基、歩道では原則として200mごとに設置し、歩行者の休憩場所を提供する計画となっている。また、歩道以外の場所では、企業等から寄贈されたベンチを活用し、地域活性化や、にぎわい

を創出する取組も行っている。

大府市への反映・所感

千葉市の「歩行空間のベンチ設置計画」は、移動困難者を始め、全ての市民に優しいまちづくりを進めている。

大府市においても、駅前やバス停周辺、歩道の改善が進められる中で、歩行者が快適に休憩できる場所を提供することは、住民の満足度を向上させ、より多くの人々が外出しやすい環境整備にもつながる。また、バス停でのベンチ設置は要望も多く、地域のニーズに応じた柔軟な対応が求められる。



▲建設産業委員会(千葉県千葉市)

沼津駅北口広場のユニバーサル

デザイン(静岡県沼津市)

取組内容と大府市への反映

沼津駅の歩道と車道の段差をなくした乗降エリアや、低床バスに対応した歩道の整備、天候に左右されない屋根の設置などは、全ての人々が

利用しやすいユニバーサルデザインを提供していた。

また、音声案内や公共サインの工夫、広い歩道の確保など、街全体で誰もが快適に移動できる環境づくりが進められている点も非常に重要である。

これらの取組は、大府市においても駅前や公共交通の利用者にとっての利便性を大きく向上させるものと考えられる。

議会運営委員会

10月30日から31日まで、福井県小浜市議会及び福井県議会を視察した。

小浜市議会議員政治倫理条例の改正等の取組について(小浜市議会)

小浜市では、議員政治倫理条例の制定から20年以上が経過していたことから、その見直しが以前からの検討課題となっていた。そのような中、令和4年12月に地方自治法が改正され、議員のなり手の確保を目的に、年間300万円以下であれば、議員個人による地方公共団体に對する請負が可能となった。

これに合わせ、議員が遵守すべき政治倫理基準等を見直し、議員政治倫理条例及び同条例施行規程の全部改正を行った。主な改正点として、

①議員の親族が役員をしている企業等の市に對する請負禁止に係る規定を撤廃、②指定管理者の指定に係る禁止規定の新設、③市民の審査請求権を新たに規定した。

大府市議会への反映・所感

大府市にも、議員の政治倫理に関する規律の基本となる事項を定める大府市議会議員政治倫理条例があるが、時代とともに関係法令も改正されてきている。中でも、地方自治法改正による議員個人の請負に関する規制緩和について改正が必要と考える。現在、議会運営委員会では、法改正への対応とあわせて、より高い倫理性を兼ね備えた条例となるよう、条例改正に向けた議論を進めている。



▲議会運営委員会(福井県小浜市)

福井県議会におけるオンライン会議の取組等について(福井県議会)

福井県議会では、ICT化を進めるため、令和2年7月に議会改革株

討会議にワーキンググループを設け、議員・議会局双方の活動や業務の効率化・高度化、緊急時における議会機能維持、議会情報への県民のアクセシビリティ向上に向けた検討を重ねてきた。令和4年9月定例会から全議員にタブレット端末を貸与し、会議資料のペーパーレス化、オンライン委員会等を開催できる環境の整備、議員と議会局・理事者との端末を通じた連携強化が図られた。令和4年9月の定例会では、本会議と常任委員会がタブレット端末を使った質疑が行われたほか、11月にはオンライン形式での委員会を開催し、実際に参加することが困難な議員1名がオンライン出席し、採決も行った。

福井県議会では、貸与端末の持ち出しも可としており、議会専用の無線LANも整備されている。また、端末の使用習熟度に差が出ないよう、職員が研修を実施するなどのフォローを行っている。

大府市議会への反映・所感

大府市議会でも、ICT化の更なる推進は重要な課題である。災害時の安否確認、オンライン会議の開催など、今後も費用対効果を考慮しながら、機器の更新や通信環境の整備、使用ルールの検討を進めていく必要がある。

地域総ぐるみ防災訓練に参加しました

11月23日、北山小学校で、地域総ぐるみ防災訓練が行われました。
私たち議員も、災害時の議会対応、災害発生時の安否確認や最新の防災用品、避難所の登録手続などについて学びました。地域の皆様がともに参加することで、共助の良い機会になったと思います。
いつ起こるかわからない災害に備え、こうした訓練が、皆様の生命・財産を守ることにつながるよう願っています。

寒中お見舞い申し上げます

政治家は、公職選挙法により、年賀状などの挨拶状を出すことが禁止されています。
ご理解よろしくお願いします。
大府市議会議員一同



3月定例会のお知らせ

日	月	火	水	木	金	土
2/23	24	25	26	27	28	3/1
			本会議 (初日)	本会議 (2日目)		
2	3	4	5	6	7	8
			一般質問	一般質問		
9	10	11	12	13	14	15
	一般質問 予備日※	建設産業 委員会	厚生文教 委員会	総務委員会		
16	17	18	19	20	21	22
		本会議 (最終日)				

※いずれも午前9時からです ※予備日は、開催しないことがあります。

編集 後記

今から半世紀以上前の話である。
寒い冬の朝、通学団の集合場所
に行くと、近くのお母さんが焚い
てくれた焚火たきびがあった。平たい石
を温めてカイロの代わりにして登
校したものだ。団のみんなが集まってくると、長な
わ跳びが始まった。まだ「8の字跳び」ができな
かった私だったが、お兄さん、お姉さんが優しく教
えてくれて、やがて跳ぶことができるようになった。

休み時間や体育の授業でも、もちろん友だちと遊
んだ(?)。でも、お兄さんお姉さんに教えても
らったおかげで、特段練習しなくても跳ぶことがで
きるようになった気がする。
現在は、焚火も登校前に遊んでいる姿も見かけな
くなり、少々さみしい。
ちなみに、当時の通学団の班長さんは、今、環境
美化推進員さんである。

(H・M)